



支援情報・参考情報



親の介護問題、 どうしてる？どう考えてる？

晩産化により、子どもが大きくならないうちに、老親の介護が始まり、育児と介護の“ダブルケア”⁹と呼ばれる問題が出てくるようになりました。「育児のことで頭がいっぱいなのに、介護のことなんか考えられないよ」、「うちの親はまだ大丈夫」と思われるかもしれませんが。実際のところ、「そのときにならないと、わからない」かもしれませんね。

シングルファーザーの子育ては、親族等のサポート、特に、SFのお母さんからのサポートを受けていることが多いと思われます。もし、子どもを見ていてくれたお母さんに何かあったら、突然、子育てと看護・介護を両方やることになるかもしれません。それを考えると、今のうちから、すべての家事をお母さんに頼ることから、少しずつ自分でもできる方式に移行していくことも考えておいたほうがいいかもしれませんね。例えば、「2年後には、お母さんの全面サポートから、部分サポートに移行しよう」など計画を立てることも有効です。

ここでは、直面する前に、そういうこともあるかもしれないことを知っておくことも大事だと思い、他のシングルファーザーのご経験や見通しを紹介しています。

うちは母がすでに後期高齢者なので、ここ数年は毎年入院することがありました。その期間は**17時半には退社し、自分が保育園に子どもを迎えに行っています。**

うちは、両親の近くに弟が住んでいるので、日頃から「親になんかあったら、俺が見るから」と弟が言ってくれています。まだ子どもも小さいので、もし、そうなったら、**弟にお願いすることになる**と思います。

両親も姉も地元に住んでいて、自分とは遠く離れています。その分、日常的なサポートは頼まずにやってきました。姉とは、親が要介護になったら、**姉が看ること、その分、「お金は任せとけ」で合意しています。**

この冊子は、川崎市在住のシングルファーザーの方を対象に実施した「シングルファーザー生活実態インタビュー調査プロジェクト」の調査結果を元に、当事者向けに編集したものです。調査報告書をご希望の方は、すくらむ 21 までお問合せください。

9：相馬直子・山下順子（2016）「ダブルケアとは何か」『調査季報』Vol.178, p20-25

相談窓口

男性のための電話相談

川崎市男女共同参画センター（すくらむ 21）が開設している、男性相談員による男性のための電話相談です。悩みを抱え込まずに、お電話ください。

044-814-1080（毎週水曜日 18:00～21:00 祝日・年末年始はお休み）

母子・父子福祉センター サン・ライヴ

ひとり親家庭等の生活の安定と向上を目的として、生活・就業の相談に応じるとともに、研修会・講習会の開催、広報誌による情報の提供など、各種事業を実施しています。

044-733-1166（9:00～17:00 ただし水・金曜は 21:00 まで。月曜・第 2,4 日曜・祝日・年末年始はお休み）

区役所

区役所でも、ひとり親家庭に関する相談や案内を行っています。

ひとり親家庭の制度案内：

- ・児童家庭課…
ひとり親相談・案内
- ・地域支援担当…
子ども・子育て相談

発行物

リーフレット

「川崎市ひとり親家庭のみなさんへ」

川崎市が発行している、ひとり親家庭の方が利用できる公的支援制度を紹介するリーフレットです。手当・助成、住宅・生活支援、就業・自立支援、就学援助、子どものことなどについて、問合せ先とともに父子家庭の方が利用できる制度もわかるようになっています。

<http://www.city.kawasaki.jp/450/page/0000041082.html>

ひとり親家庭応援メールマガジン

川崎市母子・父子福祉センター サン・ライヴが毎月発行する、ひとり親家庭向けのメールマガジンです。支援制度や、イベント情報などホットな話題が掲載されています。



書籍

『ひとり親家庭』

赤石千衣子（著）（岩波新書、2014 年）

『父親になる、父親をする — 家族心理学の視点から —』

柏木恵子（著）（岩波ブックレット、2011 年）

『父子家庭を生きる— 男と親の間 —』

春日キスヨ（著）（勁草書房、1989 年）

『死別の悲しみに向き合う — グリーフケアとは何か —』

坂口 幸弘（著）（講談社現代新書、2012 年）

男性が相談すること

川崎市が 2014 年に実施した「かわさきの男女共同参画に関するアンケート」調査によれば、「悩みや困りごとの相談先」として、男女ともに「家族・親戚」と「友人・知人」が多いのですが、女性がそれぞれ 63.4%、52.8% であるのに対し、男性は 49.1%、21.9% だそうです。「相談していない」のも、女性 15.0% に対し、男性 28.7% でした。男性は「相談」をしない傾向にあります。男性学によれば、相談をすることが相手よりも弱い立場になると捉え、それを避けようとするのは「男性性」の問題だそうです。

「相談」に対する誤解もあるかもしれません。相談したら、相手の言うとおりにしなければならぬと思っはてはいないでしょうか。親族や友人などに相談すると、「こうしなさい」という助言が多いのも事実です。SF たちも、「再婚しろ」

「元妻に子どもは渡したほうがいい」などと言われた経験があったそうです。

でも、自分がどうすればいいかわからない時、考えるヒントがほしい時、誰かに話しているうちに自分の中でどうしたいのかははっきりしたり、考えが整理されたりすることもあります。自力で困難を乗り越えるのも立派なことかもしれませんが、困った時に誰かに頼れる力も、もっと評価されてもいいですよ。

相談することに不慣れな方は、「相談」を仕事にしている相談員にお話してみてもどうでしょうか。電話なら匿名で話をできる場合が多くあります。知り合いだからこそ言えないことも、名乗らずに話せる電話相談なら、話しやすいかもしれません。